

## 2

# 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産

### 【現状認識】

本県の農業は、変化に富んだ気象や地形を活かし、農畜産物の総合供給基地としての役割を果たすとともに、地域の基幹産業として発展してきました。また、農業者の先進性と勤勉性による高い技術力により、米については全国トップクラスの単収と高い1等米比率を誇るとともに、基幹である園芸作物はレタス、りんご、ぶどう、カーネーション、えのきたけなどの全国シェア上位品目をはじめ、質の高い多様な品目・品種がバランスよく生産されています。

特に、りんご「シナノスイート」、ぶどう「ナガノパープル」などの県内で育成されたオリジナル品種は市場で高く評価され、栽培面積が拡大しています。さらに、米の原産地呼称管理制度や信州プレミアム牛肉認定制度を活用したブランド化への取組も拡大しつつあります。

しかしながら、一方で、消費人口の減少と高齢化の進行により国内マーケットは量的に縮小するとともに、消費者の持つ情報量の増加やライフスタイルの変化等により農畜産物に求める品質・味・値段などの価値は多様化・複雑化しています。

加えて、消費者の「食の安全」や「環境」に対する意識が年々高まりを見せており、競争が激化しているマーケットでは、このような変化への対応の遅れが、競争力の低下につながっています。

本県においても、企業的な経営を実践する農業者が、消費者や実需者のニーズを把握しつつマーケットインの生産や販路開拓を行う事例や、「エコファーマー認定制度」や「信州の環境にやさしい農産物認証制度」などにより環境負荷低減に取り組む事例はみられるものの、面的・組織的な広がりまでには至っていない状況です。

また、食品等の安全確保は消費者が第一に望むものであり、特に、平成23年3月に発生した東京電力福島第一原発事故に起因する放射性物質の放出事故以降、本県農畜産物への影響を懸念する声があったことから、消費者や農業者の不安を払拭するため関係機関と連携し、農畜産物等の放射性物質検査の実施と迅速な公表等を行ってきましたが、その関心は一層高まっています。その他、農畜産物の安全性を確保するためのGAP等への取組についてはJAグループを中心に進められていますが、農産物直売所等への導入が遅れています。

### 【今後の方向性】

マーケットインの生産と環境農業への取組を基本に、県内で育成されたオリジナル品種や本県の立地条件を活かした販売力の高い品目・品種の導入、新たな技術の導入等を進めます。

また、これら農畜産物の安全性を確保するとともに、農畜産物の品質向上、安定生産等を支える農業生産基盤の維持・整備と農業技術の開発・普及を進めます。

[作目別の方向性]

消費者や流通の変化を的確に捉えた農畜産物の生産振興

● 土地利用型作物（米・麦・大豆・そば）

- ・米穀類経営の規模拡大と安定化支援
- ・消費者に選ばれる特徴ある高品質米の生産
- ・実需者ニーズに対応した麦・大豆・そばの生産拡大
- ・優良種子の安定供給

● 果 実

- ・県オリジナル品種等による特色ある果樹産地の再構築
- ・収益性が高く省力的な果樹栽培の推進
- ・うまいくだものを安定生産できる産地づくり
- ・果樹経営基盤の安定

● 野 菜

- ・信頼され責任ある野菜産地の持続的発展
- ・実需者の多様なニーズ、流通の変化に対応できる新たな産地づくり
- ・「伝統」「健康」「こだわり」等に着目した新たな需要の開拓

● 花 き

- ・全国シェア上位の品目が連なる花き生産体制の維持・拡大
- ・多様な実需者ニーズに応える生産体制の構築
- ・花き経営体の競争力強化

● き の こ

- ・きのこ経営体の経営安定対策の推進
- ・収益性の高いきのこ産地の育成
- ・安全・安心・環境対策の推進
- ・消費者視点での需要の創出・拡大対策の推進

● 水 産

- ・高品質ニーズに応える信州サーモン等の安定生産
- ・遊漁者に魅力ある漁場づくり

● 畜 産

- ・消費者の求めるこだわりのある畜産物の生産と供給
- ・地域資源等を活用した生産基盤の強化
- ・家畜伝染病等予防のための防疫体制強化
- ・地域とのつながりを持ち、信州の自然・環境に適した畜産の推進

自然の力を活かした環境農業の推進  
農畜産物の安全性確保

信州農畜産物の生産を支える農地・水、技術  
(生産基盤の整備と技術開発・普及)